

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『グループホーム成寿苑は人と人とのつながりを大事にし、成寿苑に関わっている全ての方の過去も現在も未来も大切にしながら、自分らしく、家族みんなで助け合って生活していけるような家庭を築いてまいります。1…笑顔が溢れる生活 2…共生しあう生活 3…安心・信頼しあえる生活 4…心の穏やかな生活 5…個々の尊厳がある生活』を基本理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	『基本理念』を玄関に大きく掲げており、入社時やミーティング、苑内研修時にも話し合い、理念と方針を共有している。	○ 理念と方針について共有し合っているか、常に話合っていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	入居時に事業所の理念の説明している。日々、生活を送る上での理念に基づいた個々の暮らし方についての説明は随時行なっている。苑内イベントへご参加頂いた時や地域交流会に参加させて頂いた時など家族や地域の方々に事業所の活動状況を伝え、理解を頂ける様に努めている。	○ 地域活動に機会があれば参加し、事業所の実践を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的に買い物や散歩にでかけている中で、挨拶を交わしたり、庭の植木や草花の育て方を教えて頂いたりと気軽に声を掛け合えるきっかけ作りに努めている。	○ 現活動の継続により和を拓けていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地元の祭りや盆踊り大会等に利用者と共に積極的に参加している。地域交流会や地域ネットワークのふれあい喫茶にも積極的に参加している。	○ 地域でのふれあう機会作りもまずはスタッフから積極的に交流を持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々から、認知症や介護についての相談を受けた際には事業所での実践内容や培ってきた成果を伝える試みをしている。実習生の受け入れにて人材育成に貢献できる体制だが、地域の人々に向けて苑側から積極的な貢献は難しい。</p>	○	<p>包括支援センターでの介護予防教室や認知症家族会などの開催時に事業所での実戦経験や成果を報告したり認知症ケアの啓発に参加していきたい。</p>
3、理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義・目的を職員の共通の意識で共通に活用出来る様に出来るだけ多くの職員で点検に取り組んでいる。質の確保と向上に活かせる様努めている。</p>	○	<p>評価に添って又、評価結果に基づいて職員同士の話し合う機会を設けるよう努めていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>予定行事や活動内容の報告、前会議で取り上げられた検討事項や改善事項の経過を話し合い、活動内容の評価と苑への要望・助言を頂き、参考にさせて頂いている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>福祉課のケースワーカーとの課題解決は連携がスムーズであるが、介護保険課との連携は困難。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>安心サポートや成年後見制度が必要であることや金銭管理については現場職員の把握外であり、理解していない。管理者も求めてこられた方に情報提供等は出来るが詳細の説明やアドバイスは困難。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>リーフレットを冊子にし、マニュアルとしている。</p>	○	<p>日々の申し送り等で常日頃から状況の検討を重ねていくと共に、より一層、高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での周知徹底を図っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、重要事項説明とともに事業所の方針とケアへの取り組み、起こりうるリスクについて、利用者と家族、事業所との共通認識となるように詳しく説明し同意を得ている。解約時も同様に今後の方針を十分に話し合っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の立場に立った運営やケアが出来る様、ご様子から思いを察する事が出来るよう努めており、その都度、思いに傾聴している。一対一のケアの際にご不満やご意見が聴き易く、そういった時間を費やす努力をしている。</p>	<p>○ 『ご意見箱』を玄関に設置している。ご意見し易い状況作りに努めている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>特変な状況があればお電話で様子を報告し、ご家族の来訪の機会に合わせて、利用者の体調や最近のご様子について話している。個人の介護記録を合わせて見て頂いている。又、金銭管理に関しては、出納帳にて使途を明確に管理。定期的に報告し、ご家族来訪時には確認印を頂いている。</p>	<p>○ ご家族向けにお便りを出し定期的に近況の報告をしていきたいと考えている。ホームページの立ち上げも取り組んでいるので立ち上げの完成が出来れば随時の更新にて苑全体の状況をお知らせすることができると思われる。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などで利用者並びに家族が意見や不満を伝えられる様常に心掛けている。また、それらの意見を2ヶ月後の運営推進会議には改善に向け進んでいる事が報告出来るよう努力している。</p>	<p>○ ご家族同士のお顔合せやお話出来る機会を増やしていくと共に、家族会設置の検討(ご家族の協力が必要)を進め、また、ご家族から、利用者・苑の活動へのより一層の関心とご協力を頂ける様に努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図っている。普段の何気ない会話の中からでも意見や提案・要望を聞き出せるよう心掛けている。働く意欲向上に繋がる様に努力している。</p>	<p>○ ミーティング時に意見を言いやすい環境作りを考えていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の要望と状況に応じて勤務時間の設定を変化させたり、個別対応できるスタッフ人員を定数以外にも配置しており、柔軟な対応が可能な人員確保が出来ている。また、管理者も通常シフトに入っておらず利用者の状態変化や緊急にも対応でき、随時の要望にも応え易い。職員の急な休みにも対応可能である。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「馴染みの関係作り」を常に意識しており、特別な理由がない限り異動はせず各ユニットの職員を完全に固定できるように努めている。職員の離職や職員交代が利用者の不安やご家族への信頼を崩さない為にもやむを得ない状況の際には引継ぎの期間を十分に設け、スムーズに引継ぎが出来るよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や計画作成担当者に法人外研修を積極的に受講させると共に苑内研修にてスタッフへ知識共有と日々のケアに反映できる様にしている。その時期の必要な周知事項を研修内容として毎月検討し、実施。スタッフの個々のレベルやキャリアに合わせた研修内容とアドバイスを計画立て行なっている。外部研修に関して職員全員が受けることが出来る体制が整っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワーク、平野区グループホーム連絡会に加入。積極的に参加している。その中で質の向上、職員育成に向けてのスタッフ研修を設けている。他事業所との協力提携の元、1日スタッフ交代にて体験実習の実施を試みたり、事業所同士が交流を持てる機会には必ず参加し、事例検討等を通して意見交換できたものを実践ケアに活かせる努力をしている。</p>	<p>○ 外部研修を含め、職員が他事業所で体験実習できる機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>希望休の実現・シフトの調整、職員間の関係を把握し利用者との関係もふまえた上で、出来る限りの対応をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が向上心を持てる働き掛けを考えている。資格取得に向けた配慮と支援を行なっている。運営者も現場を知る為頻りに苑に来ており、利用者や職員と過す時間を大切にしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談にて直接利用者の自宅へ出向き生活状態を把握できるように努めている。入居に不安がある時は、2泊3日の体験入居を利用して頂いており、ご納得頂いた上でご入居いただけてように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご相談を受けた際、即何かしらの対応をする様に心掛けている。当苑の空きが無く対応が出来ない場合には連絡会のネットワークを利用して他事業所の情報を提供出来るようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、本人と家族の真のニーズと、当サービス・当苑を利用されることが適切であるのかを照らし合わせてお話を進めていく様に心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、本人と家族に事業所見学して頂ける様願っている。地域の馴染みの環境が保たれる条件で当苑の利用を決めて頂いたとしても、空き状況との兼ね合いが難しい場合もあり、殆どの利用希望者は、すぐに対応できる事業所を探される。また、同じ大阪市内でも、住み慣れた地域外から移り住まれるケースもあり、『馴染みの環境』に添わないこともある。空き状況や本人都合で入居までに時間を掛ける事が出来るケースは少ない。	○	ニーズとタイミングが合えば努力をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『利用者は人生の大先輩』『主体は利用者』を常に念頭に置いている。利用者、職員の関係だけでなく、人間対人間、共に支え合える関係作りに留意している。『喜・楽』は勿論、『怒・哀』を感じることも生きる中で当たり前のこととしてとらえ、その不安や辛さへの理解と共感に努めている。利用者の方々の生活歴に触れ、様々な方面で教えて頂く場面が多く、そういった場面の設定に配慮している。	○	申し送りやカンファレンス、日々の事ある毎に話し合っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご来苑の際、利用者の様子や状況の変化、支援の取り組みを細かく報告している。ありのままの状況を伝え、ご家族に対して必要な協力を得られるように事前に報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊でご家族と共に過ごす時間が持てるようにすすめること、苑に来て頂きやすい雰囲気作りに心掛けている。イベント機会には家族を誘い、本人との関係やつながりを持ち続けることが出来る配慮をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用している、行き慣れた銭湯利用の要望もあり柔軟に対応している。一人ひとりの人間関係や習慣が継続することが出来る支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関り合える瞬間を大切にしている。ティタイム・食事時間を職員も共にし利用者間の会話を持てるように支援。気の合った利用者同士で過ごせる場面作りに配慮し、遠くから見守る姿勢を実践している。毎朝夕の申し送り、カンファレンスで関わりの様子や内容について連携と情報共有できるように努めている。	○	日々の状況を把握し、利用者同士の関わり合いが円滑にいく様に関わり様子や内容について職員間の連携と情報共有できるように努めていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者と共に入所先に面会に出掛けたり、イベント時にはお誘いし、参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。コミュニケーションを通じて表情や会話の中から希望や意向を汲み取る取り組みをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりで自身の語られる言葉の中から、また、家族が語られることや本人と家族の会話の中から把握に努めている。家族が本人の暮らしぶりを把握されていない場合も多くある為情報が少ない例も多く、こちらからの情報収集はプライバシーに触れない配慮が難しい為、消極的になってしまう傾向。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が一人ひとりの生活リズムを把握出来る様に努めている。「個別介護計画書」自体が『出来ること』に着目した課題分析法を採っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ケアとして、本人の『できること』に着目し、『できないこと』についてはどんな支援が必要なのか？どう支援すれば『できる』に繋がるのか？を基にして介護計画を作成している。カンファレンスでの意見交換したものや現状況、本人・家族からの情報をヒントに『ケアのポイント』として挙げている。	○	全職員の共通認識を高めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の活動、現場が優先してしまう傾向にある。新たな計画の作成を即時に行なう事が出来ていない。	○	今後、最大の努力をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がより生きいきと記すことが出来る様、本人が何を見てどんなことを感じるのか、本人が行動するきっかけと実際行動をダイレクトに記すことが出来る様式を使用している、フロアー会議を充実させて記録の見直しを実施している。	○	記録の重要性を理解しより良く活用できる様努めていく。
3、多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行動を制限しない支援に重点を置いて実践に努めている。	○	フリーという余裕のある人員配置によるより多くの要望に柔軟に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防署と連携をとり消防訓練などを通じ、地域資源として協力を得ている。図書館が近くにあり、頻繁に利用させて頂いている。ボランティア希望の申し込みはしているがなかなか順番が来ない実情がある。	○	地域の交番が活動範囲に所在しており、連携を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のサービス事業所のケアマネジャーや専門職との情報交換できる機会を大切にしている、又ご本人の意思によりリハビリセンターの利用を続けている方もおられる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見が必要である。利用者の支援協力を得ている。事業所内、介護保険制度内で解決できない問題について随時相談する様にしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切である緊急体制を整えられるように取り組んでいる。家族の希望を聞き、ご納得の下、ご協力とご理解を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関は複数の医師を持ち、在宅を幅広く支援している。専門家の受診が必要な際は連携医療機関と密な相談の下速やかに受診対応しており診療情報のやり取りで連携取れる様努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関から看護師が2回/週訪問する。職員との連絡・連携にて日常生活状況を把握した上健康管理とアドバイスをしてくれる。主治医への報告連携をとってくれる。	○	日頃の身体状況を把握し、医療と介護の両側面から観た健康管理に留意していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の日頃からの様子や支援方法に関する情報を提供している。退院設定時に入院中の様子が把握できる様病院と連絡を取り合い、退院がスムーズになる様アプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針立てはしているが現状では未だ苑で看取ったことはない。重症化リスクの高い利用者に対して必要に応じて、家族、主治医、当苑で話し合う機会を作っており、方針の共有に努めている。	○	重度化されたり寝たきりになられた場合家族にどれだけの協力が得られるか？看取り時期の家族と苑の覚悟の共有が必要となるので揺れ動く家族の思いを察して繰り返し確認と関わり合いを積み重ねる努力をしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	見取りの指針立てはしている。現状では未だ苑で看取ったことはないが、医療との連携と全職員の共通認識の下、終末期を迎えられた方も最後まで『出来ること』を維持して頂ける様支援を続けている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族に対して十分に話し合う機会をもっている。本人・家族の意向を前提に考慮し、本人本位を重視した住み替えであることを十分に話し合い、住み替え先にも関係者間での情報交換でやり取りを密に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのない対応を徹底できる意識向上を図っている。</p> <p>個人情報保護法の理解のため研修を行っており、全職員に秘密保持、守秘義務の周知徹底を図っている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>主体は利用者にあることを日頃から念頭に置き支援している。表情での汲み取りに努め、自己決定できる場面を多く持ち、受容の姿勢と体制、選べる環境を整えている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個別性を重視できる支援を心掛けている。今までの生活歴を尊重し、個人の生活を大切にしながら共同生活を営める様に努めている。</p>	
2. その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行き慣れた馴染みの美容室に行っている。苑へのご理解も頂いている。男性は理容室を利用して頂き髭剃りを、女性であれば外出時には化粧を施し、いつまでも女性である気持を持ち、気分転換の支援を心掛けている又、ご本人が望めば職員が散髪実施することもあり、コミュニケーションの一貫としている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食を普通に楽しんで頂ける事に力を入れ取り組んでいる。食材購入～後片付け迄の一連付けて考え、各々の能力に添った役割をもち続けて頂ける様職員が常に状態を見極め対応できる様に努めている。外の菜園へ毎日行き、収穫できる食材によりメニューを考えたり、収穫前の食物を見て食への話しをし楽しみになる支援をしている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品を楽しんで頂いている。疾患や身体状況、衛生面の管理が行なえる範囲で出来る限りの希望に添えるよう努めている。</p>	<p>○ 嗜好品は節制しづらい為度を越してしまい易いので量やタイミングを考慮して支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の尿意やタイミングを観察し排泄のリズムの把握に努めている、ケアカンファレンス時に排泄パターンの変動等を話し合い、その都度ケアの統一を図っている。おむつの使用や失敗がなるべく減らすことが出来る様支援している。	○	排泄チェック表をつけ、排泄時間や排泄パターンを探る。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体の皮膚状態を観察が必要な為定期的な入浴の予定は立てている。その中での順番や時間の希望を聞いたりその他の要望を取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し生活リズムを整える様に努めているが1人ひとりの生活習慣を尊重し支援している。眠前にホットミルクを飲んで頂いたり足浴を促したり、それぞれの休息方法を取って頂いている。昼夜の逆転を起こされている方でも日中むりやり起こしたりせず、体内時計に任せている。日中～夜間の様子を申し送りにて確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活動作に沿い、生活歴に合わせ、個々の得意な事で力を発揮できる役割を持つ様支援している。役割が張り合いに成り、自信に繋がる支援を心掛けている。カラオケをしたり、車で外出したり趣味の取り入れ、レクリエーションの機会も作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所管理しているが、買い物の際は精算時の計算と支払いの機会を持って頂く支援をしている。希望により、ご自身で管理されている方もある。支出計算されて日記に付けている方もある。個々の持ち続けた能力を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今までの生活の継続として馴染みの店や喫茶店、歩き慣れた道など1人ひとりに合わせた配慮、季節に合わせ感じて頂ける配慮をしている。希望に添った外出の機会を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力も頂きながら実現出来る様心掛けている。	○	移動手段は車だけでなく電車やバスを利用しての外出機会も考えていきたい。又、事業所側の働き掛けだけではなく、ご家族の関わりにより実現できやすい様に普段からご家族とのコミュニケーションを大切にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援している。	○	年賀状や暑中見舞いなどの定期的な便りを出せる支援を勘案していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族をお客様扱いせず、一緒に関わって頂く様にしている。来苑する家族は「利用者の家へ遊びに来た」気持を持って頂ける様本人が家族を出迎え、お茶を入れて接待できるように働きかけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修で身体拘束防止についての勉強会を行ない職員の共同の認識を得ている。常日頃から拘束のないケアを心掛けている。疑問があれば相談し合える体制作りを努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	主に玄関は施錠している。利用者の状況に応じて職員の心構えと連携の下、開錠する場合もあるが、基本的に施錠している。しかし、玄関施錠に関しては弊害を感じておらず、逆に不審者の侵入を防ぐ手段としても考えている。居室の施錠に関しては職員側から施錠することは無く、プライバシーを感じたら施錠される本人の意思に任せている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアが見通し良く、安全を見守ることが出来る。日中は関わりの時間や様子観察の時間があり、夜間には2時間ごとの巡回を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険要因を考慮しながら薬品などの保管場所を変更していることなど、個別のリスクについても検討し、対応している。2回/日の日誌確認欄でチェックできる体制。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット報告を共有に認識し、事故を未然に防げる様検討と対策を考案している。喫煙者の対策としてライターの管理徹底をしている。最近では防火タイルの張り替えを済ませた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制を整備しており、スタッフの目の届く様に掲示している。	○	応急手当、救命救急の訓練、講習受講を予定している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を1回/年実施しており、火災発生時の通報手順・避難経路・消火方法など	○	大きな災害に備えて、2～3日分の食・水・衣の備蓄方法を考えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活動作の自立における危険性を家族と共通の認識として理解し同意頂き、対応策のヒントと協力を頂いている。実態や問題点を含めケアプランに載せ説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の関わりとコミュニケーションの中で普段と違う様子や毎日のバイタルチェックにて異変を早目に気付くことが出来る様に努めている。異変の際には、直ちに管理者、計画作成担当者に報告し、必要に応じ医療へ連携している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の定期・臨時処方最新の薬情をファイル化し、使用している薬の目的や注意事項を全職員がいつでも見れ、理解しやすい状態にしている。医師から薬の変更や追加指示があれば、変更・追加理由と目的、回数と期間、注意事項を申し送り共有し誤薬や飲み落としのない様に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の食事・水分摂取量、運動量、排泄の量・形状を比較し考え、働き掛けていける様、職員の意識とスキルの向上を目指している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自身で義歯管理している方、すぐに紛失してしまう方等それぞれ個々の有する力に合わせた支援をしている。毎食後の歯磨き誘導・口腔ケア実施、毎晩の洗浄を促し支援を行っている。歯科医との連携、口の中の健康と食事の楽しみに繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を記録している。状況の良し悪しを申し送りで話し合い、情報として共有している。個別のバランスについても把握に努めているが、日々の変化に敏感に気が付き、しっかりと把握することが難しい。	○	日々の変化に敏感に気が付き、把握、分析する重要性の職員の共有意識を高めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修参加、食中毒やノロウイルス対策などの苑内研修を実施している。利用者、職員にインフルエンザ予防接種を任意にて実施。点眼時の感染予防対策実行。手洗いの徹底と手指消毒剤の使用、ペーパータオル常用。感染予防の取り組みを積極的に行なっている。申し送り事項としての取り決めをしている。	○	マニュアルの整備を行なっていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・布巾など、調理器具を毎晩ハイターに漬けおき消毒している。使用後に洗った食器や鍋類を乾燥機にて熱処理し、調理台などはアルコール消毒している。日々に冷蔵庫を整理整頓し、賞味期限・食材管理の徹底を図っている。申し送り事項としての取り決めをしている。	○	マニュアルの整備を行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間トップライト点灯しており、どんな時間にもお立ち寄り頂き易くしている。季節に応じた玄関装飾、庭園に緑と花、トルペイントの看板を掲げ、来客を2匹の犬が迎えてくれる親しみやすさを工夫している。玄関先は日当たりが良く広い、洗濯物や布団干しに最適の場所として一般家庭と変わりのない生活感も感じられる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの採光が良く、気候がわかりやすい。草花が多く、季節を感じ、五感に伝わることも多いと考える。季節ごとのイベントと共におやつや食べ物にも季節感に配慮している。庭に咲いた花で食卓を彩るなど情緒深く感じる場面も多い。利用者の手作りの物や気に入った物を飾る工夫もある、又金魚を飼育している。フロアーの真中に水槽があり、和みの一つとして存在している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭先に椅子とテーブルを置き、緑に囲まれ過ごせる空間がある。喫煙者は日中は外で吸って頂いているが、独りでリラックスできる場所になっており、他の利用者の配慮にも心掛けています。独りで庭の散歩や腰を下ろせる場所やフロアにも少人数で過ごすことの出来る2~3人掛けソファを活用できる空間がある。	○	長い廊下、大きな踊り場があり、今後、思い思いに過ごすことの出来る居場所作りの空間に活用していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。あえて、新しいものは必要ではないことを伝え、説明している。居室戸の横に表札をかけ自分の部屋だとの認識、居心地、安心できる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物自体に窓が大きく多い、オープンな空間である為空気のおどみを感じることは少ない。どうしても、職員の体感・感覚に頼ってしまうところがある。日誌に室内の温度・湿度を2回/1日定時の記録項目を設けており、換気や空調管理が体調管理への必要性を共通認識できるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作に合わせた居室の家具配置を考えている。立ち続けることが困難な方にも炊事場に入って頂ける様、調理・配膳台として高さの合った机を設置している。	○	活動できる可能性を拓げていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	記憶の交差など混乱が見られた場合、問題点に着目し、混乱が軽減するような支援を勧案している。ゆっくりと説明、何度でも説明、わかりやすい表示など実施している。	○	成功体験を実感し自信を持ち続けることが出来る様支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ゆったり散歩、ピクニック感覚で弁当を拓げることが出来る程大きな庭と芝生がある。家庭菜園で豊富な野菜を楽しんでいる。芋ほり、イチゴ狩り等季節を感じる事ができ、大変活用出来ている。掃除の一環として落ち葉拾いや草むしり、犬と触れ合ったり、イスを並べて過したり出来る。	○	現状を維持していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム成寿苑(2Fフロアー)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人が長年培って来られた歴史を振り返りながら、ご自宅で制限された能力を再現して頂ける様、支援の方針をたて、日々取り組んでいる。平野という地域性の高い町で利用者が個人としていかに地域貢献できる存在か、ご自身の存在、誇りを維持して頂ける働き掛けを実践している。例えば『食』というキーワードの中で、外食へ出かけることも含め、スーパーや商店街へ目的のある買い物外出、自己決定と役割を持ちながら利用者中心の食事準備が出来る様に取り組んでいる。実際に地域の商店を利用するサイクルがその他の活動にも繋がってきている。一年を通して季節に応じた行事の実行、定期的な地域の集まりへの参加など様々な場面で人との交流が大いにある。又、菜園があり皆で成長する喜びを感じ、収穫期には食卓に並ぶのを皆で楽しみにしている。二匹の犬の存在も大きく、「世話をしとあげないとならない存在」として共に暮らしている。犬が利用者に散歩やボール遊びをせがむ様子、それに答えて下さる姿が日常にある、2Fフロアーでは、金魚の飼育も利用者の心を和ませる一つとなっている。